

国語科 学習指導案

藤井寺市立 道明寺東小学校

指導者 古川 夕夏

1. 日 時 令和7年9月26日(金)第5時限(13:45~14:30)
2. 場 所 第3学年2組教室
3. 学年・組 第3学年2組(24名)
4. 単元名 「中心人物について考えたことをまとめよう」(『サーカスのライオン』東京書籍)
5. 単元の目標

【知識及び技能】

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語句を豊かにすることができる。

【思考力, 判断力, 表現力等】

- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉えることができる。
- ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。

【学びに向かう力, 人間性等】

- ・進んで中心人物の行動や気持ちを捉え、学習の見通しを持って、考えたことを文章にまとめて伝え合おうとする。

6. 単元の評価規準

【知識・技能】

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語句を豊かにしている。[C(1)オ]

【思考・判断・表現】

- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉えている。[C(1)イ]
- ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。

[C(1)エ]

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・進んで中心人物の行動や気持ちを捉え、学習の見通しを持って、考えたことを文章にまとめて伝え合おうとしている。

7. 単元で取り上げる言語活動

- ・登場人物の性格について考えたことを伝え合う。
- ・中心人物の気持ちの変化を本文の言葉をもとに想像し、伝え合う。
- ・じんざの様子が伝わるような紹介ブックを書く。

8. 教材観

本教材は、中心となる人物が明確であり、じんざの行動や男の子の会話を通して、じんざの気持ちやその変化が捉えやすい物語である。場面の移り変わりとともに、中心人物のサーカスに対する思いや男の子に対する気持ちも大きく変化していく。また、物語の山場で火に飛び込むじんざの行動や物語の終わり方については、多様な感想が生まれるだろう。中心人物に心を寄せながら読むことで、登場人物の性格や気持ちの変化を具体的に想像するのにふさわしい教材である。

9.児童観

本学級の児童は、思ったことをすぐ言葉にする素直さや率直さを持っており、自分の思いや考えを表現する意欲がある。その一方で、自分の考えを整理して相手に伝えたり、文章や話し合いの中で「正解」ではなく、多様な見方や考え方に触れたりすることにまだ慣れておらず、話し合い活動において自分の考えを広げたり、深めたりする経験が少ない。場面の移り変わりや登場人物の心情の変化を具体的に想像し、それを根拠に自分の考えを形成することに課題がある。

10.指導観

本単元の重点指導事項は、【思考力、判断力、表現力等】の「読むことC」の内容 (1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」である。

本単元の学習では、中心人物のじんざの気持ちやその変化を、複数の場面の叙述から捉えさせたい。その際に、じんざの気持ちを心情バロメーターで表すことで、子どもたちが中心人物の気持ちの変化を視覚的に捉えやすくし、具体的に想像する手立てとする。また、心情の変化を感覚的にではなく、本文の叙述をもとに考えさせる。その手立てとして、本文の言葉に色をつけて線を引き、行動や場面描写と結び付けて読むことを取り入れる。さらに吹き出しを用いて中心人物の気持ちを自分の言葉で表現する言語活動を通して、叙述をもとにした読みを具体化させる。

意見を交流する活動では、友だちの意見に耳を傾けることで多様な感じ方に気づき、自分の考えを広げられるようにする。本単元の学習を通して、物語の読みの正解を求めるのではなく、登場人物の気持ちを想像し合い読みを豊かにすることへつなげていきたい。

11.単元の指導と評価の計画(全9時間)

次	時間	学習活動	評価基準と評価方法		
			知識・技能	思考・表現・判断	主体的に学習に取り組む態度
第1次	2	1 物語を読み、内容を確認する。 ①②本文に場所・時間・人物で色分けをしながら内容を捉える。			①②物語の全体像を把握し、学習の見通しを持っている。 (ワークシート)

第2次	4	② 中心人物の気持ちを読み取る。 【言語活動】 ③登場人物の性格について考える。 ④男の子の気持ちの変化を考える。 ⑤⑥じんざの気持ちの変化を考え、交流する。 (本時⑥)	③～⑥登場人物の行動や気持ち、性格を表す語句を理解し、使っている。 (ワークシート・行動観察)	④～⑥じんざと男の子の心情の変化を叙述をもとに考え、心情バロメーターに表している。(ワークシート) 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、登場人物の気持ちの変化を考えている。 (ワークシート)	③～⑥考えたことを伝え合おうとしている。 (行動観察)
第3次	3	③ 物語を読んで中心人物について考えたことをまとめる ⑦⑧じんざ紹介ブックを書く。 【言語活動】 ⑨同じ作者の違う作品にふれる。 【図書館活用】 ・違う物語の人物像についてくらべながら読む。 ・紹介ブックを図書館に展示する。			⑦～⑨登場人物について考えたことをまとめ、伝え合おうとしている。(行動観察・成果物)

12. 本時の展開

(1) 本時の目標

中心人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

【思・判・表】

(2) 本時の評価規準

- ・中心人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。
- ・考えたことを友だちに伝えようとしている。

(3) 本時の判断基準

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	支援を要する子どもへの手立て
登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて、 <u>友だちの考えと比較しながら具体的に想像することが</u> できる。	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。	色分けした本文を確認して書くように声をかける。

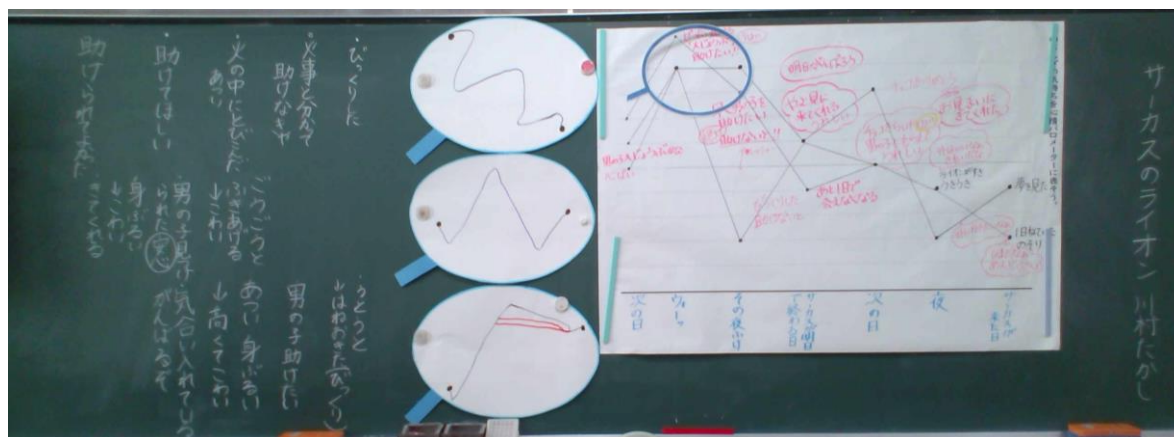
(4) 主体的に取り組む子どもの姿

観点	めざす子どもの姿	手立て
自己決定力	・自分の考えを心情バロメーターに表すことができる。	・色を分けて線を引くことで気持ちの変化や時間の流れを読み取りやすくする。 ・音読の時に気持ちの変化を手で表し、ワークシートにいかす。 ・ワークシートの工夫によって、友だちとの違いを分かりやすくすることで交流しやすくする。
他者とつながる力	・考えや意見の相違点や共通点を見つけようとしている。 ・交流の中でさまざまな意見を聞き、物語の捉え方の違いを認め合える。	

(5) 本時の学習過程

時	学習活動(○)と 予想される子どもの意見(・)	指導上の留意点(○)と 教師の主な発問(「 」)	評価規準(評価方法)
5	○本時のめあてを確かめる。	○前時の学習をふりかえる。	
じんざの気持ちの変化をかんがえよう。			
5	○本時で考える場面を音読する。	○どのような気持ちの変化があるのか本文の言葉から考えさせる。 ○気持ちの変化を手で表現させる。	
25	○じんざの気持ちが一番盛り上がるまでの変化を個人で考える。 ○グループで交流する。 ・ぐうんと大きく →「男の子を助けたい」 ・風になって →「早く行かないと」 ・身ぶるい →「こわいけど助けたい」 「高いけど大丈夫かな」 ・ウォーツ →「気づいてくれ」 「絶対助けたい」	「本文の言葉をもとにじんざの気持ちの変化を考えよう」 ○音読の時に手で表現したことを思い出しながら線で表現することを伝える。 ○音読や動作化などを入れながら考え、想像させる。 ○友だちの意見を聞き、考えが深まるきっかけになるよう声をかける。 ○自分と友だちの考えの違いに注目させる。	【思・判・表】じんざの気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 (ワークシート) 【主】考えたことを伝え合おうとしている。 (行動観察)
5	○全体で交流する。		
5	○本時の学習を振り返る。	○次時の予告をする。	

13. 板書計画



14. ご高評欄